

2023年 小教区評議会役員研修会(6/24) ふりかえり

座談会を聴いて気付いたこと、学んだこと

★
北白川教会にも外国人信者の方がいらっしゃいますが、「交流の機会を増やしたいな。」といったレベルの思いに留まっていて思考を深めるまでには至っていませんでした。ミサでの役割をお願いして広く外国人のかたに積極的に関わって頂く機会を作ること。子供の頃から当然のようにミサに行き、日頃の生活に根付いている方々から学ぶ機会を作ること。より深く交わる機会を作り学び、共有していくことで共同体の新たな進化ができるのではないかと思います。小教区としての具体的な活動を考えてみたいと考えています。また、多くの外国信者の共同体が存在している教会との交流も意義があると感じました。

★
私の教会は高齢の方が多くほとんどの方が70代以上です。また、子供たちや青年の教会離れもありできることも限られる中、ベトナムの信者さんが待者や朗読を担ってくださり他に教会の掃除などに参加して随分助けていただいております。また、聖母行列など企画して下さりベトナムの聖母行列を見ることができました。母の日には一人一人にお花をプレゼントしてもらったりと、大活躍してくださっています。最初はなかなか日本人との隔りもありましたが、ベトナムの方と私たちがつながるよう、一生懸命お世話してくださった信者さんがおり、その方と今までの役員さんのおかげだと思っています。ベトナムの方たちの信仰の強さにはこちらでも学ぶことばかりで元気をもらっています。今後ともに家族として一つになれるよう願っています、今日のお話は外国の方のために何ができるかを考えるきっかけとなりました。ありがとうございました。

★
外国人信徒の方が職場などで「私はクリスチャンです。日曜日お休みさせていただきます」「あなたのために神様にお祈りしていますよ」と堂々と言うという「宣教」について、胸が熱くなりました。相手が何者であっても自分の信じることを表明する真摯さに、見習いたいと思いました。他方で、教会内で外国語ミサと日本語ミサに接点がないことなど、かつて東京、足立区の梅田教会でも聞いた話だったので、とても気になりました。つつい心地のよい「住み分け」にとどまりがちですが、一時的に心地悪くても「共に」を模索できるほうが、もっと良いのだろう（でもエネルギーが必要なのだろう）と思いました。

★
・ホセ神父の名張、上野教会は活発な各国での活動と共に、国際交流的な活動が印象的。
・ブルーノ神父は大塚司教の話で信徒養成の話だとわかった。意欲的。
・ナン神父は、700人いるベトナムの信徒を一人で面倒を見ているのが印象的。話の中であったzoomでの祈りというのが気になった。
・鶴山神父の話では、同じ三重でも松坂、伊勢は英語ミサ程度だというのが印象的。
・シスター信田の話では、技能研修生・留学生と、定住の外国人の間でミサに来られないことがわかった。また、外国人と日本人の交流も忘れられないことも印象的。
・ナン神父が、お互いを知るために家庭に招待をするという提案は印象的。
・海外の人や、長崎出身の信徒が教会に来ることを当たり前と考えているように、その他の日本人が当たり前で教会に来るような転換点はないかなあと考えてしまった。

★
桂教会は、今日伺ったようなことは、ほとんど経験のない教会です。しかし、先日ベトナム人と日本人の婚姻の秘蹟を、主日ミサの中で行う体験をしました。第1朗読はベトナム語、説教は日本語とベトナム語、共同祈願の一部をベトナム語と日本語で（共同祈願は先唱者であった私が両国語で行いました！）実施。国際ミサとはこのようなものかと思いました。何らかの体験・実践を、ほんの少しでも各教会で実施し、体験することが大切だと思いました。

★
・外国人の信徒に、同僚、知人を教会に誘っていただく。
・教会は、日本社会の中でも、多様な文化と交わることができる特性を持つことが強みになる

2023年 小教区評議会役員研修会(6/24) ふりかえり

★

京都教区、各教会における外国人コミュニティの規模と各教会の取り組み、外国人神父様の取り組みたい課題、外国人の方々の信仰について学べてよかったです。

★

他の教会の外国信徒の状況が少しわかりました。座談会の話の内容が今一つ曖昧でわからない面があったように思いました。それぞれの信徒の国民性や所属教会の地域性はあるとしても、今後、外国信徒との交流の在り方・方法というものの具体的な紹介があれば更によかったように思いました。これからの小教区は協力し合った同じ共同体という意識をもって進んでいきたいと思えます。

★

1) 教会が、他文化との積極的な交流の、日本における先駆けになればよいと感じました。そのために、外国から来ておられる方々の事情を知ろうとすることと、互いに気持ちを通わせる機会が必要だと思います。国際ミサのお話には魅力がありました。

2) 種々の信徒養成の機会の必要性を感じました。受身の勉強でなく、自ら考えたことや実践をわかちあう、グループ学習のイメージです。どこにどのように福音を届けるかの考察……身近な福音宣教の実践報告……文化を超えて互いに刺激を与える交流……今回の座談会のお話を聞きながら、信徒養成のヒントをおもちの方が、他にもいらっしゃるように思いました。

3) 聖職者、奉獻生活者、信徒が協働するために、素地となる日常的な交わりが不足していることも感じています。それぞれに多忙すぎるのだろうと想像しますが、わずかでもこれまでとは違う、新たな気持ちで元気をひき出せるようになりたいと思えます。

★

Sr.信田も言われてみえましたが、外国人の共同体と日本人の共同体との交わり、共生といったものは稀有である。コロナ前はそうでもなかったが、ミサ参加人数の制限や分散化のため、自然とスペイン語ミサ、英語ミサ、ベトナム語ミサ、ビサヤ語ミサに、別れてしまったのが現状です。改善方法として思い浮かんだのはホセ神父さんも言われていました

国際ミサです。津教会は年1～2回程度、国際ミサをおこなっていましたが、どうしても日本人が中心です。これを改善して、スペイン語、英語、ベトナム語、ビサヤ語など各国の人が中心になりミサを先導し、それに全信徒があずかる。といった方法でおこなえば少なくとも年4回は国際ミサになり交流が深まるのではと考えました。

その他、何でも

★

パネラーの方にお話をおねがいするときに、その都度、「4分くらいで」などと明確な時間をお願いしたほうがよかったのではないかと思います。ブルーノ神父様が言おうとしていたことの全体像は何だったのか、と気になりました。

Sr.山本による最初の紹介がとてもよかったと思えました。個性的なパネラーの神父様、シスターがたの真摯な取り組みを目の当たりにできて、とても勉強になりました。ありがとうございました。

★

多くの日本人信徒が、海外の信徒のように教会に来るのが当たり前とは考えていない状況はどうしたらわかるのか、難しく感じました。やはり、済州教区などで、熱心な活動に接すると特にそうです。

★

なかなか組織だった取り組みにならないことが残念。

個人任せにすることが多く、任せられた外国人信徒にも負担。日本人信徒の働きかけが弱く感じる。

誰にでも心の拠り所になる教会づくりをどのようにするのか、多様な意見を容れて最良解を求めたい。

★

最後質問でお願いしましたが、国際ミサに各教会で使える様に、日本人オルガニスト用に各国の聖歌の楽譜と歌詞、聖土曜のごミサの聖書朗読、共同祈願の各国語の翻訳を教区内統一で配布又はネットに掲載して頂きたいです。

2023年 小教区評議会役員研修会(6/24) ふりかえり

★
難しいこととは思いますが、やはり小教区に一人は神父が必要と思います。神父がいるのといないのでは何事に対しても違います。

★
zoomも良い面ありますが、出来ましたら「対面およびzoomの併用」いわゆるハイブリッド方式を採用されてはいかがでしょうか？奈良ブロックで今のところ、ベトナム語ミサをしていただいています大和高田教会ですので報告・意見書を作りました。別途送ります。

★
対日外国人の方々のご苦勞少しでも知る良い機会となりました。日本で文化の違いや生活の苦勞・ストレスの中でミサというものの重さを意識されてミサに行くことが当たり前・常識とされていることに頭が下がり、浅い自分自身を顧みました。現在、京都は来日観光客の増加により日本で一番国際的な都市だと思いますので京都教区優先課題「滞日外国人の人びととの連携多国籍の教会共同体」に少しでもご協力したいと感じました。

大和高田報告書

以下、大和高田教会の感想・報告です。当教会はベトナム語ミサの会場教会として高田教会所属のベトナム人信徒もいる関係もあり、滞日ベトナム人とは話す機会が多い状況です。

教会は彼らをあたたかく迎え入れ、奉仕する使命をもっていると理解しています。

状況

・2018年位から大和高田教会にベトナムの若者が増えてきた。技能実習生が多く3年位で帰国され入替が多い。国際協力委員中心に、あたたかく迎え入れよう、お世話を始めました。

・2022年11月から、第2日曜日の午後。ナン神父様の司式でベトナム語ミサ。

参加者:70名位(奈良県下・近隣他府県から)+日本人信徒参加10名位

通常主日のミサでは、高田の日本人信徒と高田教会所属ベトナム人は20~30名位ミサに参加

日本人信徒と同様にベトナム人地区を作っていて、評議会出席・朗読・侍者を奉仕。ミサ中ベトナム語で日本語の後、主の祈り・共同祈願もしています。今では、彼らをお客様扱いにしていたましたが、今では日本人信徒と同様以上の関係となっています。

滞日外国人から学ぶこと

・高齢化している大和高田教会に、彼ら若い力とあつい信仰で元気をもらっています。

彼らがいなかったら高田教会はどうなっているか？心配するところです。

・日曜日は教会で過ごす習慣が染みついているのか？なかなか帰りません。日本人信徒も一緒に楽しんでいます。

・教会から離れていた信者のみならず未信者の友人も連れてきています。(司牧活動?)

・教会で奉仕作業があったら率先して手伝ってくれます。行事には積極的に参加してくれる。クリスマスには教会の飾りつけとは別に、彼らの飾りつけ、馬小屋を作ってくれています。

・これからも、協力しあい元気な教会になりたいと思っています。

出合いのなかの問題点

ベトナム人信徒の増加にともなって理解が深まってきましたが、課題はいろいろあります。

①言葉の不自由さ大きい問題。コロナ前は日本語の勉強会を開催していましたがコロナ禍で立ち消えています。彼らは社会的基盤がなく、生活状況が不安定であるため、家庭、職場や地域社会から疎外されがちです。ベトナム語ミサでナム神父様、時々来られる箕面のシスターと話し合っていると思っていますが心配なところです。

2023年 小教区評議会役員研修会(6/24) ふりかえり

大和高田報告書 続き

②我々にはいつも明るく元気に接してくれ、悩み相談はない状況ですが、職場・地域社会での問題に我々はどこまで関わるか？公的相談窓口では難しいところです。また、技能実習制度は廃止され特定技能制度に変わりそうです。新特定技能制度の試験に合格した人は安定した仕事につき、不合格の人は帰国になるのか？心配します。

③結婚し子どもを持った人たちがいます。今後は子育ての支援が必要となっています。

特定技能の資格を取り、日本に定住し、家庭を持った人たちは、後輩の若者たちのリーダーとして、来日したベトナムの若者をまとめ、日本人信徒との交流も増していきたい。